心をひとつに

秋田県人会 九州・沖縄

題字：ばんば三郎

白神山地と屋久島でガイド連携



秋田県の白神山地と鹿児島県屋久島の世界自然遺産ガイドが連携を始めています。日本初の世界自然遺産に同時登録されて30年、白神山地・屋久島のガイドが相互訪問し、相互の研さんやガイドのポイントを互いに学ぶなど魅力の再発見に務めています。

昨年6月には屋久島から山岳ガイド協会の古賀顕司会長〈48歳〉を始め20代から40代のガイド13名が秋田県山本郡藤里町を訪ねました。

一行は4日間の予定で白神ガイド協会4名の認定ガイドから、ブナの木の特徴や白神山地ならではの注目点や倒木した「400年ブナ」、新たなシンボルツリーとしての「岳岱大ブナ」「こまいぬシナノキ」などを紹介されながら、白神山地の意義や自然を守る重要性を確認しました。

説明を聞いた屋久島ガイドには初めて白神を訪れた人もおり、屋久島とは植生が大きく違う白神のブナ林に入り、同じ自然遺産地域のガイドとして学べる事柄に注意を向けていました。

屋久島山岳ガイド連盟の古賀会長は4回目の訪問で、「説明内容がしっかりしていて、同じガイドとして勉強になる部分も多い」と話しました。また、「国内初の世界遺産として同時に登録されたため、屋久島では白神山地を『兄弟遺産』と呼んで親近感がある。観光に携わっている者同士でさらに交流を深めて、旅行商品なども作っていけたらと思う。」と話していました。

秋田・埼玉・熊本、家族都市プロジェクト



秋田・埼玉・熊本を結ぶ家族都市プロジェクトのおでかけガイドが完成しました。このプロジェクトは、ギャグ漫画「クレヨンしんちゃん」を題材にしています。「クレヨンしんちゃん」は、臼井義人さん原作で1990年から双葉社の漫画アクションに連載され、1992年からテレビ朝日系列で放送されています。

「しんちゃん」は、埼玉県に住む5歳の幼稚園児「野原しんのすけ」です。お父さんが秋田県出身の「ひろし」、お母さんが熊本県出身の「みさえ」です。

その野原一家の呼びかけで家族都市プロジェクトがスタートし、昨年7月に3県知事が出席して家族都市プロジェクト（協定）を結び、大曲の花火、川越の「時の鐘」、熊本城など3県の観光地を紹介した「おでかけガイド」が、このほど完成しました。

秋田と熊本にはお爺ちゃん・お婆ちゃんが暮らしており、野原一家も里帰りで、たびたび訪れています。秋田と熊本は「しんちゃん」にとって第2のふるさとです。この野原家のように3県は、がっちり手をつなぎ、日本中が元気になるようなイベントを始めています。

世界でも初めてという家族都市プロジェクトに、ご期待下さい。

佐賀県青春寮歌祭



11月25日（土）午後1時から佐賀市のエスプラッツホールで第31回佐賀県青春寮歌祭が開催されました。

北は北海道大学から南は鹿児島大学まで国公私立24大学の同窓生、約200人が集まりました。

秋田鉱山専門学校の流れを汲む秋田大学には福岡・秋田県人会会員と同じ顔ぶれの方もいて、5人が学帽・袴に高下駄姿で登場し、秋田鉱専の校歌と旧学生寮・北光寮の寮歌をアカペラで元気に歌いました。演壇正面には各同窓会の幟が並びましたが、秋田鉱専の幟はひときわ古く、歴史と年輪を感じる物です。

歌の前に同窓会・北光会九州支部の瀬戸信吾支部長は、「秋田は只今、熊の被害でご心配をおかけしております。」と挨拶し、会場に詰め掛けた参加者が頷く場面もありました。

この寮歌祭は北海道大学同窓会佐賀県支部長、大宅公一郎さんの努力に負うものが大きく、大宅さんの体調が優れずに一時は開催中止も検討されたそうですが、寮歌祭の灯を消さないで欲しいと中央大学同窓会佐賀県支部の皆さんが物心両面で働きかけ、実現しました。寮歌祭の冒頭で大宅さんは、巻紙を開いて檄を飛ばし、「寮歌は老化を駆逐する。」と訴えました。

佐賀アリーナに秋田プロバスケ



11月4日と5日、秋田ノーザンハピネッツが佐賀市の佐賀アリーナで佐賀バルーナーズと対戦しました。

会場の佐賀アリーナは、佐賀県がJR佐賀駅北側の21ヘクタールの敷地に540億円をかけて建設したサンライズパークの一角です。パークは、バスケットボール会場になった多目的スタジアム・佐賀アリーナを中心に陸上競技場やサブトラック、屋内プール、冷暖房完備の体育館、射撃場、テニスコートなどを備えています。

ノーザンハピネッツでキャプテンを務めた水町亮介さんは、現在、佐賀でバスケットボールのコーチをしています。その水町さんから佐賀秋田県人会が招待応援のチケットを頂きました。会場近くに住む会員の隈本由子さんが自転車で駆け付け、選手に佐賀の地元産ポテトチップスを差し入れました。その効果もあって、2日間の対戦成績は1勝1敗でした。

ノーザンハピネッツの水野勇気社長も佐賀市を訪れ、秋田市八橋に建設予定のバスケットボール仕様の新施設の建設に向け、佐賀アリーナの施設内外を視察しました。

柴田須磨子さんの団体が緑綬褒章



福岡・秋田県人会会員の柴田須磨子さんが代表を務めるボランティア団体「福岡ホスピスの会」が昨年10月、緑綬褒状（褒章）を受章しました。

会は1998年に発足しました。4代目代表の柴田さんは1986年に当時7歳の三女を交通事故で亡くしました。柴田さんを中心に40代から80代の会員が、がん患者などと語り合う「ぬくみカフェ」を開催したり、緩和ケア病棟で患者や家族の悩み、苦しみに寄り添って来ました。柴田さんは、「問題は解決できないかもしれないが、語り合うことで悩みを心から解放できる。これからも、仲間と歩んで行きたい。」と言っています。

みちのく夢プラザ25周年祭

福岡市中央区天神の新天町商店街にある北東北・秋田青森岩手3県合同のアンテナショップ「みちのく夢プラザ」がオープンから25周年になり、2月1日から4日まで25周年祭が開催されました。

4日（日）は、午前11時と午後2時に男鹿市から駆け付けた「なまはげ太鼓」の演舞があり、商店街を埋めた買い物客に4匹の「なまはげ」が豪快な撥（ばち）さばきを披露しました。

「なまはげ」が小さな子供に「泣く子はいねが」と声をかけ、子供が怖がって泣き出すと、ご家族の笑いを誘っていました。

「みちのく夢プラザ」では4日間、秋田・青森・岩手の生酒などが販売され、道行く方が気前の良い「ふるまい酒」に行列を作りました。

1999年2月5日にオープンした「（旧）みちのく夢プラザ」は、現在の場所から少し離れた生命保険会社のビル1階にあり、3県知事が記念のテープカットをしました。3県の産物を販売すると共に九州から3県への観光客誘致が「みちのく夢プラザ」の役割です。

3県の職員が事務所に詰めており、秋田県職員の中には福岡が大好きで現在3回目の勤務をこなしている方もいます。25年前のこの日は最高気温が7.1度、午前中のテープカット時は冷たく吹雪が舞う中でした。今回は、最高気温が12.6度と立春らしい暖かさでした。

地酒祭に なまはげ

11月2日（木）から4日（日）まで、福岡市中央区天神の新天町商店街にある北東北三県アンテナショップ「みちのく夢プラザ」で秋田地酒祭が行われました。

鹿角市の千歳盛酒造などから約30種類の秋田のお酒の試飲販売があり、店頭で「なまはげ」との撮影会もありました。

2匹のなまはげ役の1匹は、7月から福岡に勤務している鈴木徹さんで「なまはげ」初体験です。もう1匹は、県人会理事で若手の村木千隼さんです。

「なまはげ」を見て通りかかった家族連れの女の子が泣き出す場面もありました。鈴木さんの職場からも2人が訪れ、記念撮影の手伝いを率先してされていました。

鈴木さんの職場では職場新聞に鈴木さんの「なまはげ姿」が登場し、中身は誰かとクイズになったそうです。



25周年祭のなまはげ太鼓



古民家の宿とカフェ「Hostel＋café たね」

熊本秋田県人会会員の佐藤昭二さんのご家族が経営する「Hostel＋café たね」が2023年3月21日にオープンしました。

場所は、熊本県上益城郡山都町大野285で、カフェは土曜日曜の11時から17時です。

料金は、1泊朝食付きで8,000円程度です。

2024年2月11日に九州中央自動車道が山都通潤橋インターまで延伸しました。築100年以上の古民家をリノベーション。

電話080-2717-3772



加藤シゲアキ「なれのはて」



2023年末の直木賞候補になった小説です。アイドルグループNEWSに所属する加藤シゲアキさんが同年10月に小説現代で発表しました。

加藤さんは大阪府豊中市出身で青山学院大学卒業の36歳。2012年に「ピンクとグレー（角川書店）」で作家デビューし、2021年にも「オルタネート」で吉川英治文学新人賞と高校生が選考する高校生直木賞を受賞しています。

加藤さんの母親は秋田出身で、「なれのはて」では、太平洋戦争の終戦前夜に秋田市土崎港を襲った米軍の空襲がこのミステリー小説の鍵を握っています。旧日本石油・製油所を目標にした土崎空襲では約1万2千発の爆弾が投下され、住民も含めて250人以上が犠牲になりました。加藤さんは空襲体験者から証言を聞きました。

戊辰の役、佐賀藩士慰霊碑建立35年



写真は、原田彰さん（佐賀を元気にする若者の会）、原田さんの奥様、福田輝凱さん（鹿島市）、池田廣志さん（鹿島市議）武富秀樹さん（佐賀県職員）、佐々木三知夫さん（佐賀藩士慰霊秋田委員会会長）です。

2023年10月21日から23日まで佐賀県から5人の有志が秋田県を訪ねました。

佐賀空港から羽田経由で秋田に着いた一行は大潟村に入り、佐賀県からの入植者を訪ねます。翌日は秋田市新屋の葉隠墓苑で慰霊祭に参列しました。葉隠墓苑は、戊辰の役に旧佐賀藩から秋田佐竹藩の救援に駆け付け命を落とした藩士の霊を慰めるため、慰霊碑を建立しています。一行は、この後にかほ市に移動し、TDKの創設者・斎藤憲三の母で佐賀鹿島家から斎藤家に嫁いだミネの墓参などをしました。佐賀と秋田は明治以前から繋がりが深いのです。

秋田県人沖縄会、新年会



1月20日（土）18時から那覇市銘苅のジミーズ・アイランド・グリルで秋田県人沖縄会の新年会が開催されました。会場は沖縄県庁から北東に3km、ジミーズの創業は沖縄・本土復帰前の1956年、米軍基地で働いていた創業者の故・稲嶺盛保さんが基地でジミーの愛称で呼ばれていたことから付けられました。参加者は、名誉会長の今野両一さんや前会長の木村昭男さんなど全部で9名でした。

木村さんは約20年続けた会長を宮城由美子さんに譲りました。副会長も同じ宮城姓で敦子さんです。新年会には福岡・秋田県人会理事の福圓あゆみさんも駆け付け、福岡の今野正春会長からのメッセージを読み上げました。木村前会長は、挨拶の中で、秋田県遺族連合会が毎年、摩文仁の丘で営む沖縄戦の慰霊祭や、かつて秋田県庁から沖縄に贈られた秋田杉の現在を沖縄の地元紙記者と訪ねたことなどの思い出を話されました。新会長の宮城さんは、福岡の福圓さんと共に能代市出身で共通する故郷の話で盛り上がりました。また、同じ時間に福岡・秋田県人会も新年会を開いていることをお話しすると、集まった方から沖縄の言葉で「あらっあ、わざわざね。ありがとうね。」と返されました。今度は、沖縄の皆さんと福岡で会いましょうと再会を約束して会は約2時間でお開きになりました。この日、夕方の那覇市の気温は23度、暖かい沖縄でした。

おくやみ

安岡忠夫さん



安岡さんは、昨年3月21日、すい臓がんのため福岡市早良区の病院で亡くなりました。享年77歳でした。謹んで、お悔やみ申し上げます。

ご自宅は福岡市早良区賀茂ですが、12年前から南に20キロほど離れた佐賀市三瀬村に家を建て日本蜜蜂の養蜂業を営んでいました。

三瀬村の佐賀県北山（ほくざん）少年自然の家で子どもたちを対象に蜜蝋体験や蜜蝋を使ったろうそく作りなども指導されていました。

安岡さんが密蜂の巣箱から離れて畑仕事をしていると、蜜蜂が飛んで来て、安岡さんの胸の辺りを飛び回ったそうです。何かなと思って巣箱に行くと蜜蜂の天敵スズメバチが巣箱を襲撃していたというのです。蜜蜂が安岡さんに天敵の来襲を知らせていたのです。また、安岡さんが体調を崩して巣箱に行けなくなると蜜蜂も巣箱に帰って来なくなるそうです。蜜蜂は賢い生き物です。三瀬村の巣箱は安岡さんが亡くなった後、村の方達や安岡さんのご家族が守り育てています。安岡さんは、大分県日田市出身で秋田県出身ではありませんが、3年程前に、杉やお酒に美人の里という共通項から入会されました。

改めて、ご冥福をお祈りします。

滑川　勉さん



写真は1990年に福岡県内で開催された「とびうめ国体」で秋田県選手団を応援する福岡・秋田県人会会員です。右側で幟を持つのが滑川さん。滑川さんは、2023年11月7日、福岡県大野城市の病院で老衰のため亡くなりました。享年90歳でした。

滑川さんは仙北市角館町の出身で、東京時代に運動用品の秀山荘に勤務されました。福岡市の岩田屋デパートに秀山荘が出店するため、責任者として赴任したのが福岡生活の始まりでした。この間、日本プロスキー教師協会の公認教師として多くのスキーヤーを育てました。

運動用品店を閉じた後は、夫人の淳子さんと居酒屋を始めます。店の名前「あさひるばん」の名前のように二人で長時間、店を切り盛りしました。場所も大名、祇園町、博多駅近くと移る中で、「あさひるばん」は福岡・秋田県人会の溜まり場になって行きます。1995年に店が閉じるまでの13年間は、「あさひるばん」が県人会の拠り所、故郷でした。これまでのご協力に深く感謝申し上げます。

同居されていた、ご長女の白糸初美さんのマンションには滑川さん愛用のスキーが立てかけられていました。夫人の淳子さんは88歳。「お迎えが来る頃です」と仰っていましたが、声に張りがあり、記憶力も衰えていませんでした。改めて、ご冥福をお祈り致します。

小池敦子さん



福岡・秋田県人会の元理事、小池敦子さんが今年1月15日に胃がんのため、亡くなりました。享年67歳でした。

ご主人の透一さんから頂いたお礼の言葉です。「きらり木漏れ日のようなまぶしい思い出がいっぱい～ずっと大切にしていきます。娘の言葉を借りるなら、妻は『多趣味で活動的』いつもいきいきとしている女性でした。」

小池さんは秋田県大仙市で一人暮らしのお母さんを介護するため、福岡市から大仙市へ毎年、何度も帰省される一方、国内・海外と、ご家族と旅を愛する方でした。帰省の折には秋田県立美術館で開催された写真家・木村伊兵衛の写真展を紹介されたり、石垣島でペンションを経営する会員の松田信太郎さん方を訪ねられました。秋田生活が年間で95%、福岡県糸島市生活が5%という秋田公立美術大学の藤浩志・教授が糸島市に持つアトリエも訪ねました。こうした行動は毎日のようにfacebookでも発信され、元気な会員の代表格でした。ご冥福をお祈り致します。

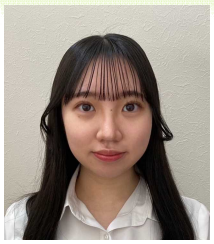
福岡・秋田県人会、新年会

1月20日（土）18時から福岡市中央区赤坂の居酒屋「うみさと」で福岡・秋田県人会の新年会を開催しました。出席は初参加の2名を含んで22名で、熊本秋田県人会から水俣の長谷川忠志さんや、熊本市の西里晃子さんも暫くぶりに参加されました。今回、近況などを寄せて頂いた会員は44名でした。

冒頭で今野正春会長は長く役員をして頂いた小池敦子さんが1月15日に67歳で亡くなった事、会員の安岡忠夫さんが亡くなったことも近況で触れ、能登地震の被災状況を考えて乾杯ではなく控え目な声で献杯の発声をしました。

会場の「うみさと」は由利本荘市出身の村上弥（ひろし）さんが経営しており、県人会割引を紹介されました。初参加は田川智恵子さんで「福岡には30年以上住んでいるが、県人会を知ったのはごく最近の事」と自己紹介されました。また、福岡財務支局勤務の鈴木徹さんは、昨年みちのく夢プラザ（北東北3県合同アンテナショップ）のイベントで「なまはげ」になり、職場で話題を呼んでいる事を話されました。最後に、アイドルグループNEWSのメンバーで加藤シゲアキさんが書いた直木賞候補の「なれのはて」を紹介して、参加者や会員の1年の健康を祈りました。

橋本花帆さん、東北大学医学部へ進学



東日本大震災で被災し避難先の福岡市で劇団わらび座の子役を演じた橋本花帆さん〈18歳〉が2月13日、難関の東北大学医学部に進学することが決まりました。花帆さんは、5歳の時に東日本大震災で被災し、福岡市に母親と避難しました。2012年1月、わらび座が福岡市で蝦夷（えみし）を題材にしたミュージカル「アテルイ」を公演する際、星丸という子役を募り、幼稚園児だった花帆さんが応募して見事、役を演じました。

花帆さんは小学2年で福島市に戻り、5年生までの3年間は父親の仕事で米国・シカゴ生活を経験します。こうした経験を生かして中学・高校の6年間では、全国中学生人権作文コンテストや青少年読書感想文全国コンクールで上位入賞し、高校生平和大使も務めました。

福島市に住む祖父が広島原爆の被爆者で花帆さんは被爆3世になります。自らの生い立ちや経験から国際看護士、助産師の道を進むことを決め、東北大学医学部のAO入試に合格しました。その原点は6歳で演じた星丸からの自信だと言っています。

event

沖縄

☆ 3月13日～16日に秋田県遺族連合会が沖縄、広島に慰霊巡拝の旅。
遺族連合会から16名、秋田県庁から2名が参加します。秋田県人沖縄会も沖縄県糸満市摩文仁の丘、千秋の塔で営まれる慰霊祭に参列します。千秋の塔には、沖縄戦の戦没者432柱と南方地域の戦没者12,000柱が祀られています。秋田県の一行は、沖縄県から広島市に移動し、平和記念公園を巡拝する予定です。

福岡

☆ 博多どんたくパレード：5月3日（金）または4日（土）。後日、参加希望者を募ります。
☆ 定時総会：5月18日（土）会場未定

募集

会報へのご意見、ご感想、投稿をお願い致します。
宛先は、福岡・秋田県人会、中村靖、
メールアドレス：o-nakamura@mms.bbiq.jp
郵送の宛先　：〒819-0013、福岡市西区愛宕浜2－3－11－1406

